

感動の仕掛人たち

影の立役者は語る

南那珂地区の和牛生産の力を見せつけた今回の全共。その舞台裏にはJAや行政の技術員など、たくさんの支えがありました。約4カ月間、通常の業務をこなしながらも朝夕欠かさずに出品牛の世話をし、全てを捧げた裏方の彼ら。代表して3名の立役者に話を聞きました。



想いを原動力に変えて

JA串間市大東 技術員
内野 雄介さん

「かなりきつかった。今まで背負っていたものをそっと降ろすことができました」と話すのは内野さん。今回初めて全共を経験した内野さんは、県代表にする候補牛を選定する時期からただならぬ重圧を感じていたと言います。「自分が選定し、生産者にも了承をいただき、調整を始めていた牛がいたんです。すごく努力してもらって良い牛に仕上がっていたんですけど、最終選考で候補から外れてしまったんですよ。生産者としては、ここまでやってきたのについて気持ちになるのは当然ですよ。相当な努力がかかりますからね。その生産者の気持ちと、大東地区から今回こそは出品したいという想いを抱えてしまっ、毎日押し潰されそうでした」。

しかし、その逆境こそが内野さんの原動力だったともいいます。「とにかくやれることをやるだけ」。

そんな状態だったかなと思います。その気持ちだけが自分を動かしていましたね」。

代表が決まる前から、5区に出品した和野さんの牛舎に度々訪れていた内野さん。県代表に決定してからは、担当技術員を務めました。

「過去に、県代表戦で最後の最後に和野さんが負けてしまったことがあるんですよ。あと一歩のところまで全共に行けなかったんです。その時、絶対に悔しいだろうに悔しいって言わなかった時の表情がずっと忘れられないでいるんですよ。だからこそ、何があっても連れて行ってあげたかったです。そんなこともあつての今回でしたから、首席まで獲れて言葉が見つけられません。なにより、よかったね、秀樹さん!! この気持ちでいっぱいです」。



南那珂家畜市場で牛の規格を測る技術員たち



会場でも牛舎の掃除を協力して行います

代表牛が決定された5月25日。この日から大会までの約4カ月間、吉田さんの牛に寄り添う毎日が始まりました。家畜市場に預けられた牛の世話をするために朝4時半から水洗い、毛並みを整えるためにシャンプー、ブラッシングそして運動と調教。日中業務を終えると、再び7時〜8時まで世話を繰り返す日々。

げ、掴み獲った結果。目頭を熱くさせながら吉田さんは言います。「あの感動をどう表現して良いかわかりません。苦労しましたけど、そんなことより本当に本当に牛がよく頑張ってくれましたね」。



本番前に牛の状態を確認する吉田さん

受け継がれてゆくたすき

元JAはまゆう畜産部
中山 満彦さん



40年にわたり南那珂の畜産の発展に貢献し、全共でその栄誉が称えられ登録事業功労者として表彰を受けた中山さんは元技術員の立場として話します。「技術員のみならず大きな拍手を送りたいと思います。彼らの頑張りの結果に大きくなつたのでしよう。農家のみなさんからも評判が良くて、みんなが自信を持って堂々と取り組む姿を見てると嬉しくなりますね。前回より出品頭数が増えてもなお、結果を出しているというところは、牛と人が確実に成長し、改良の歩みが正しい方向に進んで来たという証しなんです。結果を受けて、現役時代の仲間と自分たちがやってきたことは間違っていないと確認し合うことができました。これからも発展を続けていくために、前進を続けて欲しいですね」。

結実した一途な心

JAはまゆう畜産部
吉田 安伸さん



本番前の練習を見守る



毛並みの最終調整

そんな状況にも次第に変化が現れます。「毎日声をかけて触ってたんですけど、いつからか自分の姿を見るなり寄って来るようになっていたんですよ。なでてやると気持ち良さそうな表情まで見せるようになって」。

牛との確かな信頼関係を築き上